

令和5年10月13日

所属 文化・教育・くらし創造部文化財保存課
担当 記念物・埋蔵文化財係 本村充保
電話 0742-27-9866

令和5年10月20日（金）に開催されました国の文化審議会文化財分科会（会長 佐藤 信）において、史跡名勝天然記念物等の指定が答申されました。そのうち奈良県に関係するもの（7件。特別史跡 藤原宮跡、特別史跡 高松塚古墳、史跡 纏向古墳群、史跡 飛鳥宮跡、史跡 大官大寺跡、史跡 中尾山古墳、史跡 檜前寺跡（すべて追加指定））について、お知らせします。

特別史跡の追加指定 2件

1. 名称 藤原宮跡（ふじわらきゅうせき）
2. 所在地 奈良県橿原市高殿町143番 外33筆
3. 面積 既指定地：992,452.64 m²
追加指定地：9,293.63 m²
4. 概要

持統天皇8年（694）から和銅3年（710）まで営まれた古代の都城跡。藤原京跡の中心に位置し、約1km四方の区画内に内裏・大極殿、役所群が建てられた。今回、条件の整った地点を追加指定する。

1. 名称 高松塚古墳（たかまつづかこふん）
2. 所在地 奈良県高市郡明日香村大字平田414番 外14筆
3. 面積 既指定地：1,533.37 m²
追加指定地：1,688.73 m²
4. 概要

7世紀末～8世紀初頭に築造されたとされ、1972年の発掘調査で極彩色の壁画が発見されたことで一躍注目を集めた。墳丘は径23m、高さ5mほどの二段築成の円墳で、埋葬施設は横口式石槨で、東壁には南より男子群像・青龍と日像・女子群像、西壁には南より男子群像・白虎と月像・女子群像、北壁は中央に玄武、天井には星宿図があることが明らかとなった。今回、条件の整った地点を追加指定する。

史跡の追加指定 5件

1. 名称 纏向古墳群（まきむくこふんぐん）
2. 所在地 桜井市大字太田245番
3. 面積 既指定地：24,414.21 m²
追加指定地：2,064.44 m²
4. 概要

奈良盆地東南部に位置し、弥生時代終末期から古墳時代前期初頭の定型化前の前方後円形の墳丘を持つ6基で構成される古墳群で、我が国の古代国家形成期の様相を知るうえで重要。現在、2基が史跡に指定されており、今回、纏向石塚古墳の一部で条件の整った区域を追加指定する。

1. 名称 大官大寺跡（だいかんだいじあと）
2. 所在地 奈良県橿原市南浦町944番 外5筆・高市郡明日香村大字小山59番地 外5筆

3. 面積 既指定地 : 48,266.84 m²
追加指定地 : 4,879.90 m²(橿原市域)
追加指定地 : 5,790.00 m²(明日香村域)

4. 概要

奈良県橿原市南浦町・明日香村大字小山に所在し、『日本書紀』に「おおつかさのおおでら」と記された飛鳥・藤原地域では最大級の古代寺院にして、日本最初の官寺として知られる。『大安寺伽藍縁起並流記資材帳』によれば、聖徳太子によって創建された「熊凝精舎」に由来するとされ、「百済大寺」、「高市大寺」を経て「大官大寺」と改称され、川原寺・飛鳥寺の三大官寺の首座としての地位を確立したとされる。平城遷都とともに移転し、「大安寺」として現在まで法灯を繋ぐ。発掘調査の結果、塔・金堂・講堂が回廊により囲まれる伽藍配置であることや、金堂・講堂は藤原宮跡の大極殿に匹敵する規模をもち、塔は方5間の九重塔であること、さらに出土遺物から文武朝の遺構であることが判明するなど、古代寺院の成立を考える上で非常に重要。今回、橿原市域と明日香村域とで条件の整った地点を追加指定する。

1. 名称 飛鳥宮跡 (あすかきゅうせき)
2. 所在地 奈良県高市郡明日香村大字岡 34 番 2 外 8 筆
3. 面積 既指定地 : 37,677.52 m²
追加指定地 : 3,001.76 m²

4. 概要

明日香村大字岡に所在し、7世紀に歴代の宮殿が造営された宮跡として知られる。これまでに実施された発掘調査成果により、Ⅰ期：舒明天皇の飛鳥岡本宮、Ⅱ期：皇極天皇の飛鳥板蓋宮、Ⅲ-A期：斉明天皇・天智天皇の後飛鳥岡本宮、Ⅲ-B期：天武天皇・持統天皇の飛鳥浄御原宮と変遷したとされる。飛鳥宮跡は、飛鳥時代の宮殿の実態や当時の政治体制を考えるうえで、極めて重要な価値を有する。今回、村道・里道・水路など条件の整った地点を追加指定する。

1. 名称 中尾山古墳 (なかおやまこふん)
2. 所在地 奈良県高市郡明日香村大字平田 670 番 5 外 2 筆
3. 面積 既指定地 : 987.00 m²
追加指定地 : 262.46 m²

4. 概要

8世紀初頭に築造されたと考えられ、文武天皇の真の陵墓の可能性が有力視されている。墳丘は全面に川原石を敷設した直径約19mの八角墳で、高さ4mほどの三段築成の墳丘を持つ。埋葬施設は横口式石槨で内面には水銀朱が塗布されていたことが確認された。飛鳥時代の陵墓のあり方を考えるうえで極めて重要な価値を有する。今回、条件の整った地点を追加指定する。

1. 名称 檜隈寺跡 (ひのくまでらあと)
2. 所在地 奈良県高市郡明日香村大字檜隈 595 番 外 2 筆
3. 面積 既指定地 : 7,611.00 m²
追加指定地 : 439.57 m²

4. 概要

渡来人集団の一つである東漢氏の氏寺と想定されている古代寺院。出土した瓦から、金堂は7世紀後半に建てられ、一時中断をおいて塔・講堂は7世紀末に造営されたと推定される。伽藍配置は、中門を入ると正面に塔があり、これを囲むように回廊が巡る。回廊の南面には金堂、北面には講堂がとりつく。金堂は基壇外装が残っておらず不明であるが、講堂は瓦積基壇を採用する特殊なものとなっている。今回、条件の整った地点を追加指定する。

